

美杉だより

第20号
平成23年12月1日
発行：美杉総合支所

2011 みすぎ秋まつり 10/30~11/3

担当：地域振興課
電話：272-8080

目次

みすぎ秋まつり	1
	2
美杉中学校文化祭	2
美杉木材まつり	2
津市美杉総合文化センター 整備事業推進委員会	3
林野火災合同訓練	3
防災頭巾作り	3
ベタンク・グラウンドゴルフ大会	3
森林セラピーウォーキング 地域づくりリーダー育成研修会	3
三国屋特集	4
	5
お知らせ	6

2011みすぎ秋まつりは、10月30日（日）から11月3日（木・祝）にかけてロングラン開催となりました。



30日のオープニングには、市長をはじめ地元出身の市・県議会議員など多数のご来賓の参加もあり、あいにくの空模様でしたが、盛大に秋まつりをスタートしました。

今年は、例年行われる美杉の特産品の販売や文化協会の芸能発表に加え、八知地区の歩け歩け大会と合同開催したノルディックウォーキング大会、白塚のおさかなまつりも行われ、マグロの解体ショー、貝汁のふるまい、海産物の販売があり、地域外からも花を添えていただきました。



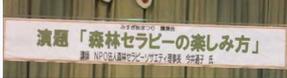
2日は、森林セラピーウォークとして、太郎生地内の森林セラピーロード『日神西浦コース』の日神溪



谷に広がる滝群を地域内外から71人の参加の下、ウォーキングしました。午後には、NPO法人森林セラピーソサエティの今井通子理事長も昼食会場の城山ラインガルテンに到着し、参加者とのフリートークで盛り上がりました。



3日は、美杉連山のろし太鼓の演奏、よさこいソーラン、仕掛鍋等例年の出し物に合わせ、まちづくり推進連絡協議会を構成する各地域づくり協議会によるPRやチャリティバザーなどでにぎわいました。



午後には、『森林セラピーの楽しみ方』と題し、今井通子さんの講演があり、森林を活用した健康づくりなど医師の観点から日頃の健康管理に役立つお話を聞かせていただきました。講演後は、森林セラピー基地フォトコンテストの入賞者の表彰を行い、森林セラピーソサエティ理事長賞には亀山市の森崎進さん、まちづくり推進連絡協議会長賞には市内の披田野享さんが受賞されました。フォトコンテストに参加いただきました写真は、美杉中学校体育館に展示しました。

また、期間中、地域の方々の力作268点が開発センター等で展示され、多くの方々が来場されました。今後も一人でも多くの方が参加いただけるような秋まつりめざして斬新な企画に取り組みますので、来年も多数の参加をお願いします。

お詫びと訂正です。
先月号の4ページに掲載しました「伊勢本街道歴史ウォーク募集」の記事中、申込先の電話番号が誤っておりました。訂正し、お詫びします。
伊勢本街道を活かした地域づくり協議会
電話 059-212-0174です。

【編集の記】
みすぎ秋まつりの初日は、あいにくの雨になってしまいましたが、期間を通じてたくさんの方々におこしいただきました。
秋まつりが終わった頃から、ひと雨ごとに冷え込んできたような気がします。
長期予報では、ここしばらくは寒暖の差が激しい日々が、2、3日の周期で繰り返されるそうです。体調管理には最も厄介な気象状況のようですので、十分お気をつけください。

美杉中学校文化祭 『Make a treasure 大切だと思える何かをつくろう』



10月30日(日)、『Make a treasure 大切だと思える何かをつくろう』をテーマに美杉中学校の文化祭が開催されました。

今年は体育館の耐震工事のため、例年より1カ月遅れの開催でしたが、体育館ステージでは、生徒会のオープニングビデオ、ブラスアンサンブル部の演奏、学年の取り組みの発表(1年 故事成語、2年 職場体験、3年 水平社宣言)、合唱コンクール、生徒会企画(3行ポエム、自由発表)などが

行われ、日頃の成果が存分に発揮されました。

また、体育館フロアには、中学生の美術、家庭、習字作品と保育園児の作品も展示されました。

今年は、みすぎ秋まつりとの同日開催となり、保護者のほか、地域の皆さんも多数来校され、たいへん盛り上がりました。



美杉木材まつり 10/20



10月20日(木)、美杉木材協同組合主催の第38回美杉木材まつりが、美杉木材市場で開催されました。

秋晴れの下、午前9時からせり売りが行われ、威勢のいい声が響く中、300㎡の取引が行われました。

また、午前11時30分から式典が行われ、優良木材に対して表彰が行われました。

森林セラピー基地フォトコンテスト 優秀賞作品

理事長賞
森林セラピーソサエティ



美杉地域まちづくり推進連絡協議会会長賞



津市美杉総合文化センター整備事業推進委員会 11/15

11月15日（火）、美杉総合開発センター1階会議室において、津市美杉総合文化センター整備事業推進委員会（委員長：今井幹雄）が開催されました。

会議では、現庁舎及び総合開発センター跡地の利活用について、熱心に協議され、同委員会からの意見としてまとめられ、市に対して意見書が提出されます。

○主な意見

- ①地域活性化への取組み、史跡名勝などの文化、観光施設の情報発信の拠点施設
- ②敷地外周へ憩いの場となる緑地
- ③イベント会場（野外舞台、物産品販売等テント）
- ④駐車場



林野火災合同訓練 11/13



11月13日（日）、スカイランドおおぼらにおいて、林野火災を想定した消火活動訓練が行われました。水利の乏しい場所においてポンプ自動車からポンプ自動車へホースを連結して消火を行う訓練をはじめ、防災航空隊による空からの消火訓練も行われました。

空気の乾燥する時期、各家庭においても火の取り扱いにご注意ください。

防災頭巾作り 10/25

10月25日（火）、八幡地域住民センターにおいて、津市消防団芸濃方面団女性消防団ささゆり分団のみなさんの指導により防災頭巾などを作りました。

頭部を守り、非常時の下着や着替え等にもなり、ほどけばバスタオルとして使える優れたものです。この他、土のう袋のリュックやレジ袋でのおむつの作り方など災害時に役立つものもつくりました。



ペタンク大会 10/27

10月27日（木）、フットパーク美杉において美杉老人クラブ連合会主催のペタンク大会が開催されました。全国大会出場歴のある選手も参加するハイレベルな勝負が繰り広げられ、121人の選手達が爽やかな汗を流しました。



グラウンドゴルフ大会 11/10

11月10日（木）、フットパーク美杉において美杉老人クラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会が開催されました。

参加された160人の皆さんはホールインワンを狙って熱心に競技をされていました。



森林セラピーウォーキング 10/25

10月25日（火）、森林セラピーロード君ヶ野ダム湖畔コースにおいて、森林セラピーウォーキングが開催されました。

当日は、78人の参加者があり、約5Kmを2組に分かれウォーキングしました。



午後は、普段は入ることのできない君ヶ野ダムの内部を見学することができ参加者は、ダム管理事務所の職員さんの説明に熱心に耳を傾けていました。

地域づくりリーダー育成研修会10/26

10月26日（水）、美杉総合開発センターにおいて、美杉地域まちづくり推進連絡協議会（会長：今井幹雄）主催の地域づくりリーダー育成研修会が開催されました。

今回は、本年度2回目の研修で、地域づくりに活用する地域資源の捉え方について、講師の福井隆先生の講義を受けました。

この地域にしかない資源を活用した取り組みが一つでも多く出来るようがんばってほしいと思います。



「たろっと（太郎生人）三国屋」を 地域振興の活動拠点に！！ 三国屋特集

たろっと三国屋オープン

10月23日、太郎生地域づくり協議会の活動拠点施設となる「たろっと三国屋」が完成し、盛大にオープニング式典が開催されました。

この「たろっと三国屋」は、空き家を活用して地域の活性化につなげようという農林水産省の「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業」の交付金1,500万円を受け、市からの委託事業として3,000万円をかけて協議会が、平成18年に105年の歴史に幕を閉じた老舗旅館「三国屋」を復活させたものです。

オープニング式典には、たろっと三国屋のオープンを記念して同日開催された森林セラピーロードウオークに参加された市内外のお客さんにも加わっていただき、たろっと三国屋周辺の式典会場は立錐の余地もないほどのにぎわいとなりました。

式典は、協議会会長の水井達雄さんの主催者あいさつで始まり、津市長をはじめとする来賓の方々からの祝辞の後、テープカットと参加者全員によるジュースの乾杯で祝賀機運は一気に高まりました。快晴の秋空にこだました乾杯の大合唱は、これまでみんなで力を合わせて三国屋の復活に取り組んでこられた協議会の会員や地元の方のご努力とご苦労がみごとに花開いた瞬間でもありました。



「たろっと三国屋」特集に当たって

太郎生地域の振興拠点施設としての期待を担い、10月23日に「たろっと三国屋」がオープンしました。今後この施設が末永く地域の人々に有効に活用され、さらに発展していくことを願って、協議会会長の水井達雄さんと三国屋ゆかりの方々からお話を伺いました。

「たろっと三国屋」にかける協議会の意気込み

「たろっと三国屋」の生みの親でもある太郎生地域づくり協議会会長の水井達雄さんにお時間をいただき、協議会の生い立ちや「たろっと三国屋」にかける協議会の意気込みなどについてお話を伺いました。

—— 三国屋整備のきっかけ ——

この協議会は、平成22年6月11日に設立された「空き家活用施設管理運営団体設立準備会」がその前身で、6回の準備会を経て、同年9月25日の協議会設立総会で正式に発足しました。当初準備会は太郎生自治

会連合会の理事7人で発足し、その後、地域住民から公募会員を募り、協議会設立総会には21人の会員が集まりました。準備会設立のきっかけは、廃校や廃屋を活用して地域の活性化を図ることを目的とした農林水産省の「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業」の活用について、津市から太郎生自治会連合会へ話があったことから始まったと言います。設立当初のご苦労をお伺いすると、「三国屋を整備する目的、三国屋が目指す姿を会員全員が共有すること」だったそうで、「太郎生らしさにこだわり、三国屋の歴史をどう引き継いでいくのかをみんなで議論した」とのことでした。「歴史的建造物としての三国屋をできるだけ残し、厨房や物産販売施設など必要最小限の改修にとどめよう」というのが会員の共通認識となり、「この自分たちの考えが必ずお客さんにも伝わり、必ずお客さんが乗ってきてくれるはず」と自信のほどをのぞかせます。「料理も田舎料理にこだわった。とにかく、何としてでも都市との交流人口を増やしたかった」と、当時の熱気を振り返ります。

—— 当面の三国屋の運営 ——

現在の協議会には観光部会、物産部会、環境整備部会の3つの部会が設置されており、それぞれの部会で意見を出し合い、役員会で最終判断をするシステムになっています。「料理のメニューや販売する物産品についても、会員みんなで話し合ってきた」と言います。

当面の運営について何うと、「法律に則った運営をしていかなければならないのはもちろんだが、当面は、田舎体験宿泊と田舎料理については予約限定で対応し、田舎料理は、地元産のあまご料理と野菜や椎茸、こんにゃくなどを素材にした料理にこだわり、より田舎らしいメニューにしていく」とのことでした。田舎料理については、会員が試食会を繰り返し、現在では5種類のメニューになっています。また物産販売については、地元で作った野菜やお茶、手作りのお菓子や手芸品を仮オープン後に既に販売を始めており、なかなかの評判なのだそう。現在はたろっと三国屋に会員1人が常駐していて、毎週水曜日が定休日になっています。



—— 三国屋にかける将来の夢 ——

協議会が心血を注いで復活させた三国屋を拠点とした太郎生地区の活性化への夢は、会長の中で大きく膨らんでいます。「たろっと三国屋には大きく5つの機能があります。物産や観光などの地域資源を発信していく基地とすること。田舎ステイの体験施設とすること。地域づくりの活動拠点施設とすること。地域の物産販売や田舎料理を提供する商業施設とすること。森林セラピー基地などの情報発信基地とすること。これらの機能が効果的に機能し合い連携し合うことで、地域にとっての三国屋の存在はさらに大きなものになっていくはず」と胸を張って語られます。「将来的には、宿泊と太郎生の自然を活かした農業体験などをセットにした商品を開発し、都市からの交流人口を増やしていきたいし、美杉地域から外に出ていった人たちの同窓会などの会場としても活用していただければありがたい。太郎生を訪れる人が増えてくれば地元の野菜の消費も増えるし、地域全体が潤う。交流人口が増えれば、訪れた人と地元住民とのコミュニケーションも活発になり、地域が活性化していく。赤字だけは避けたいが、まずは地域の活性化につなげるのが重要だ」と言います。

現在の協議会のメンバーは46人。「三国屋を中心とした太郎生地域への誘客が成功すれば、三国屋以外の空き家の活用も視野に入ってくるし、様々な商売も可能になってくる。理想としては、三国屋は地域の観光センターとしての役割を果たし、地域の中で個人経営の観光施設が増えてきて欲しい。そのときまで、協議会は頑張りたい」と、その意気込みを語ってくださいました。



「美杉地域で高齢化率が40パーセントを割っているのは太郎生地区のみ。しかし、この数字を維持していくのは至難の業。交流人口を増やしていくことが地域活性化の近道。そのためには、美杉地域の他の活性化協議会や森林セラピー基地運営協議会などとの連携が不可欠」だと断言します。美杉地域の様々な団体との連携を深め、美杉地域全体の活性化のためにも、太郎生地域づくり協議会のさらなるご活躍を期待したいと思います。

三国屋の思い出

「たろっと三国屋」のオープニング式典には、平成18年に創業105年の歴史に幕を閉じた老舗旅館「三国屋」ゆかりの方々も駆けつけてくださいました。式典終了後に貴重なお時間をいただき、三国屋の思い出がいっぱい詰まった3人の方々に、色々な思い出話を伺いました。三代目当主の辻一(はじむ)さんと最後まで三国屋を切り盛りされた女将の美代子さんの長女田中壽子(ひさこ)さん、一さんの妹である辻一枝(かずえ)さん、美代子さんの妹である鈴木恵子さんの3人です。

創業家で初代当主の辻秋蔵さんに随分かわいがられたそうで、初代当主の秋蔵さんと三代目女将の美代子さんの思い出を中心にお話していただきました。

—— 秋蔵さんの頃の思い出 ——

伊勢の国、伊賀の国、大和の国。この3つの国を結ぶ交流の場として、明治36年に、辻秋蔵さんによって創業されたのが三国屋でした。

太郎生に初めて電話が引かれたときは、僅かに5軒だけで、1番が三国屋、2番が丸八酒店、3番が廣瀬屋、4番が太郎生村役場、5番が濱地医院でした。この1番(現在は273-0001)が、たろっと三国屋に引き継がれました。電気も、太郎生で一番に三国屋に灯ったのだそうです。秋蔵さんは、名張乗合自動車のバス路線を誘致し、名張から三国屋の前まで乗合バスが走っていたということです。この乗合バスの運転手さんは三国屋が定宿となっており、運転手さん専用の部屋まであったといえます。三国屋の向かいに専用の建物を建て、泊り客やぶらりと立ち寄った人々にコーヒーの炊き出し(こんな表現をしてみました。)をされていました。随分近代的で、先進的な方だったようです。

当時の常連客というと、奈良からの菓の行商人、建物の柱になる木の買付け人、蚕の雌雄を選り分ける「選り子(よりこ)」と呼ばれていた人、電気工事の作業員さんも長期滞在していたそうです。ちょっと変わったところでは、県や税務署の職員なども出張の際に、その日には帰れない距離なのでよく泊っていたそうですし、登山目的の外国人もいたと言います。修験業山、学能堂山、俱留尊山、大洞山などに挑んだ人たちなのでしょう。猟期には、田中さんという猟師さんが毎年長期にわたって投宿され、その方の専用の部屋もあったそうで、このたびの三国屋の改修に際して部屋の整理をしていたところ、その猟師さんが愛用されていた法被が見つかったということでした。

—— 美代子さんの頃の思い出 ——

三代目の当主だった一さんは、美杉村役場の職員でした。一さんは退職を機に三国屋経営に専念することになりますが、三国屋創業80周年を記念して、昭和58年に三国屋の建て替えを決意します。悲劇はその新三国屋のオープン時に起こりました。オープン前日に建替えに携わった業者を招待して、ねぎらいの宴を開きました。オープン当日の昼間は老人会の宴席があり、夜は消防団の宴席でした。その夜の二次会の席で一さんは突然倒れ、帰らぬ人となりました。その後、美代子さんが女手一つで、この新装なった三国屋を切り盛りしていくことになりました。



この頃になると遠方からの客は少なくなり、地区の会合や地元団体の歓送迎会などの客が中心になっていました。

美代子さんは、何かにつけて物知りで、お客さんを大切に、話し好きな人でした。最も鮮明に思い出に残っているのが、炭火焼きへの美代子さんのこだわりだそうです。美代子さんの自慢は、鰻や鮎、あまごの焼き物でした。特に鰻のかば焼きは、秘伝のたれとこだわりの焼き方が自慢でした。秘伝のたれは、少しずつ継ぎ足して引き継がれてきたものですが、その作り方は恵子さんや一枝さんにも決して教えてはくれなかったそうです。鰻を焼くときは、必ず裏表を3回ずつ裏返して焼かされたのだそうです。何回も何回も焼かされたので、しまいには焦げてしまいはいらないかと焼かされるたびに、いつも心配になったと言います。美代子さんの食へのこだわりは、牛肉にもありました。伊賀牛にこだわり、それも決まった精肉店からしか購入しなかったのだそうです。色々なものにこだわり、お客さんを大切にされた美代子さんの人となりしがしのべられます。



—— 協議会への感謝 ——

美代子さんは平成11年に脳梗塞で倒れ、その後の注文は断り、開店休業の状態が続きました。そして、平成18年に、ついに廃業に至りました。美代子さんは今もご健在で、最近のことはよく覚えてみえないそうですが、昔の三国屋の思い出はよく口にされるそうです。

お話を伺った3人の方々は、口をそろえて協議会への感謝の気持ちを語られました。「こうして三代にわたって守り続けてきた三国屋が、協議会の方々のお陰で、その屋号と電話の1番を復活していただき、引き継いでいただいた。こんなに嬉しいことはありません」と。



お知らせ

八知保育園に遊びに来てくださ～い！！

～美杉子育て支援 すぎっ子～

八知保育園では、保育園に入園していないお子様とその保護者を対象に、毎月第1・第3木曜日午前10時～『すぎっ子の集い』を開催しています。

絵本を読んだり、人形劇やコンサートなど、毎回違った内容で皆さんをお待ちしています。

詳しくは、八知保育園（☎272-0224）へお気軽にお問い合わせください。



歳末もちつき大作戦2011

12/24高齢者の方がおみえになる世帯へつきたてのおもちをお届けします。

あったか正月を実現する会では、皆が「あったか正月」を迎えることができるよう、恒例の歳末もちつき大作戦を実施します。美杉町内の80歳以上（平成23年12月31日現在）の人がおみえになる世帯へおもちをお届けします。

そこで同会では、もちつき、豚汁の具材にご協力いただける人を募集しています。

◆募集期限 12月5日（月）まで
日時：12月24日（土）9時30分集合
会場：美杉高齢者生活福祉センター
問い合わせ：美杉地区社協（☎）274-0022

健康相談

今月より、毎週火曜日に実施してきました健康相談を第1、第2週のみ月曜日の午後に変更して実施します。なお、月曜日の相談員は、美杉診療所の田中医師です。

今月の健康度チェックは「冬の健康管理について」です。是非ご利用ください。

自分の健康は自分で守り、いきいき人生を
たのしみましょう。

【問い合わせ】

☎ 276-0333（相談日時のみ）

☎ 272-8083（相談日時以外）美杉総合支所市民福祉課

健康相談時間 …（月）13:30～16:30（火）9:30～12:30

健康度チェック … 1回目10:00～10:30、2回目11:00～11:30

月	日	健康相談	健康度チェック
12	5（月）	○	/
	12（月）	○	
	20（火）	○	冬の健康管理について
	27（火）	○	

紙おむつ等給付事業【高齢サービスⅠ】

在宅において介護が必要で失禁状態のために、おむつが必要な人に紙おむつ等を給付します。

業者が、月に1回1か月分の紙おむつ等を配達します。
対象者：65歳以上の常時紙おむつが必要な在宅の高齢者
利用料：無料

給付内容：1人1か月あたり5,000円分以内の現物給付です。
種類はテープタイプ、パンツタイプ、フラットタイプ紙おむつ、
尿取りパッドがあり、指定のコースの中から選択できます。

お問い合わせ：高齢福祉課 ☎ 229-3156

美杉総合支所市民福祉課 ☎ 272-8083

美杉町チャリティゴルフ実行委員会から
美杉地区社会福祉協議会へ寄贈

11月4日（金）、去る9月7日に開催された美杉町チャリティゴルフ大会で、参加者の皆さんや協賛者からいただいた寄付金を大会代表篠原利昭さんから、田中会長へ寄贈されました。



～森もり元気になろに！美杉～ 美杉健康づくり推進協議会だより



11月3日、「みすぎ秋まつり」にて健康づくり推進員の地域活動でスクエア・ステップを行いました。スクエア・ステップは転倒予防や脳の活性化に効果があるといわれています。この日も子どもからお年寄りまで、たくさんの方に体験していただきました。参加者の中には、難易度の高いパターンに挑戦する方もあり、皆さんふれ合いながら楽しく参加されていました。今後も皆さんの健康づくりのお手伝いをさせていただきたいと考えています。ぜひご活用ください！

【電話番号】 美杉総合支所

地域振興課 059(272)8080・8082・8085

市民福祉課 059(272)8083・8084

行政相談・人権相談

日時：平成23年12月8日（木）午後1時30分～
場所：グリーンハウス美杉（美杉町八知）